

2019 年度 第 1 回全国健康保険協会大分支部評議会 議事録

開 催 日 : 令和元年 5 月 28 日(火) 10:00~11:10

場 所 : J:COM ホルトホール大分 201 会議室

出席評議員 : 安部評議員・阿部評議員・木本評議員・草野評議員・野崎評議員・藤嶋評議員
(五十音順)
評議員 9 名中 6 名出席

I 議 題

1. 支部保険者機能強化予算について(第 1 回)
2. 大分支部事業報告について
3. 加入者の認知率に関する調査結果と支部広報計画について

II 議 事 概 要(主な意見等)

議題1. 支部保険者機能強化予算について(第 1 回)

<事務局>資料に基づき説明

議題2. 大分支部事業報告について

<事務局>資料に基づき説明

[学識経験者]

支部保険者機能強化予算の検討・策定に向けて、7 月、10 月に開催予定の評議会にて提案を受けたいということだが、大分支部の事業計画の枠組み内での提案という理解でよろしいか。

<事務局>

お察しのとおり、大分支部の事業計画に関連して新たなアイデア等、提案をお願いしたい。

[学識経験者]

全体的に KPI 設定されており、その達成状況を説明していたが、KPI を達成していない項目については、どういう評価になるのか。KPI の達成状況が予算に反映される等の仕組みがあるのか。

<事務局>

達成状況に応じて支部業績評価に反映する場合はあるが、予算に直結するわけではない。

協会けんぽでは、保険者機能強化アクションプラン(第 4 期)で 3 年後を見据えた重要業績評価指標(KPI)を定め、平成 30 年度よりそれを単年度の進捗に置き換えて KPI を設定している。各支部が設定された KPI を達成すれば、協会けんぽ全体の目標が達成できることになる。

[学識経験者]

私見としては、事業の実施にあたって KPI の設定が必ずしも有効であるとは思わないが、未達成項目については見た目が良くないと感じる。

〔学識経験者〕

レセプト点検の査定率が前年度より低下しているが、レセプト点検査定率の仕組みについて説明をお願いしたい。

＜事務局＞

レセプト点検については、一次審査を社会保険診療報酬支払基金が行い、二次審査を協会けんぽで行っている。医療機関の請求について、審査側が不適正と判断した場合を査定といい、支払基金と協会けんぽ合算の査定件数が査定率として反映される。

〔学識経験者〕

社会保険診療報酬支払基金との定期的な連絡調整の機会を設け、支払基金の審査体制の改善等を強く要望したとあるが、具体的にはどのような要望をされたのか。

＜事務局＞

前年度の中期頃より社会保険診療報酬支払基金の支部長に毎月お越しいただき、その中で査定率の向上や査定漏れの改善等について要望をしている。

また、支払基金は都道府県毎に支部があり、支部間で審査委員会の傾向等に差異が見受けられるため、審査委員会体制の改善要望等も行っている。

〔学識経験者〕

査定率の向上を目標にしているが、医療機関からの請求が適正であれば、査定率は低下するという理解でよろしいか。

＜事務局＞

医療機関への指導等が行き届いて、不適正な請求が減少すれば、査定率も低下することになる。

議題3. 加入者の認知率に関する調査結果と支部広報計画について

＜事務局＞資料に基づき説明

〔事業主代表〕

認知率に関する調査結果の説明があったが、このような少ないサンプル数で実態を表しているのか、甚だ疑問である。

また、広報手段の一つとして「冊子の配布」を挙げられているが、実際に活用されているか調査したことがあるのか。世の中は、情報誌が飽和状態で、見られていないケースも多々ある。提供側が重要だと感じて、受け手側とのミスマッチも考えられる。実態を把握するためには、健康保険委員等を活用する方法を検討すべきと考える。

常々申し上げているが、大きな制度改正等を実施しない限り、小さい改善策を講じても同じことを繰り返すのではないか。

例えば、お薬手帳ではなく、スマートフォンでジェネリック医薬品の確認等が容易にできれば使

機密性 2

用促進につながるし、保険証もマイナンバーで一元化すれば無資格受診を防止できると考える。

<事務局>

協会けんぽ大分支部では、今年度 6 月に健康保険委員に対して広報媒体の活用方法や広報希望項目等についてアンケート調査を実施し、今後の広報の参考とする予定である。

〔学識経験者〕

保険者機能強化予算については、次回の評議会で貴重な財源をどう効果的に使うべきか議論したい。

事務局側は、議論しやすいような資料作成をお願いしたい。また、評議員の皆さまも活発な議論のため、資料等を事前確認のうえ臨んでいただきたい。

(以上)